

ID 初心者が ID を体感するための ID 学習会方略

-既存心肺蘇生講習会の三変化-

Strategy of ID seminar for ID beginners to experience the ID -Three changes to existing CPR training sessions-

岩永 康之^{*1*2}, 廣庭 晴香^{*1*2}, 森田 晃子^{*3}, 早川 勝夫^{*2}, 鈴木 克明^{*2}

Yasuyuki IWANAGA^{*1*2}, Haruka HIRONIWA^{*1*2}, Akiko MORITA^{*2}, Katsuo HAYAKAWA^{*2}, Katsuaki SUZUKI^{*2}

^{*1} 社会医療法人緑泉会 整形外科米盛病院

^{*1}Yonemori Orthopedic Hospital

^{*2} 熊本大学大学院教授システム学専攻

^{*2}Graduate School of Instructional Systems, Kumamoto University

^{*3}TDM コンサルティング株式会社

^{*3}TDM consulting co. ltd

Email: iwanaga@yonemorihp.jp

あらまし：当院では、現在「病院革命」という名のプロジェクトを進行中である。そのうち、看護師のラダー改善に取り組むチームにおいて、全ての基本は学習・教育であるとの考えの下、インストラクショナルデザイン(ID)を学ぼうという気運が高まり、ID 学習会を企画し開催した。ID について全くの初心者がその対象であったことから、心肺蘇生講習会を例に、「よくある普通の研修」、「少し改善された研修」、「ID に基づいた研修」の三変化を体感してもらい、その明らかな違いを認識することで ID への理解を図ったものである。事後テストとアンケート結果から一定の評価は得られたが、今回の試行をプロトタイプとした形成的評価から改良すべき点が明らかとなった。今後も改善・修正を重ねて、より効果の高い ID 学習会を開発する予定である。

キーワード：インストラクショナルデザイン, 初心者, プロトタイプ, 形成的評価, 研修

1. はじめに

当院では現在、TDM コンサルティング株式会社の協力の下で「病院革命」というプロジェクトを進行中である。そのうち、看護師のラダー改善に取り組むチームにおいて、まずは、全ての基本は学習・教育であるとの考えに立ち返り、今行われている各研修を改善するためにはどうすればよいかを考えた。丁度この4月から、当院より第1・第2著者が熊本大学大学院において、第5著者の下、教授システム学を専攻していることもあり、研修の効果と効率と魅力を高めるための体系的なアプローチに関するインストラクショナルデザイン(ID)を学ぼう、という気運が高まった。

そこで、当法人の職員達、すなわち ID について全く知らない初心者を対象に、特に ID の定義と

研修の設計手順を点検する ための ID の 5 つの視点⁽¹⁾ についての学習会を行うことにした。研修を改善するための ID 学習会であるので、講師が一方的に講義するだけの形式で行うことは避けるべく、これまで行ってきた研修が、ID を活用することによりどのように改善されるのかを実際に体感してもらえよう学習会を企画・実施した。その内容と共に、今回の学習会をプロトタイプとして得られた、次回への改善点を報告する。

2. 目的

ID について全くの初心者を対象に、研修に ID を取り入れることで、いかにより効果的・効率的・魅力的に改善されるかを、体感してもらう学習会を企画・実施した。その効果を確認して改善

点を得ることを目的とした。

3. 研究方法

本研究の対象者は10名であった。当法人看護師のうち、各部署で人材育成に関わる者を優先して選抜した。学習会は1時間を予定して開催した。対象者全員がID学習会として、同じ研修を一度に受けた。時間内に3パターンを体感できるよう、胸骨圧迫の部分だけに焦点を絞って行った。以下、ID学習会の流れを表1に時系列で示す。

表1 ID学習会の流れ

項目	内容
a. 事前	一次救命処置の胸骨圧迫手技にテーマを絞って、テキストと事前テストを配布し、一通り自主学习をしてから会場に入ってもらおう
b. 開始	ID学習会の目標1・2を説明し、資料にてIDの定義を紹介。<目標1>資料を見ながら良いので、IDについて説明することができる。<目標2>IDに沿った研修の基本的な流れを説明することができる。
c. パターン1	普通の胸骨圧迫講習会。自己紹介から始まり、目標の説明も何もなしにテキストの説明のみで終わるパターンを示す。
d. パターン2	パターン1を少し改善したもの。目標は提示するが、人形を用いて実際に体験をさせて終了。テストもなく感想を聞いて終わる。(現在当院の講習会がこのレベル)
e. パターン3	IDに基づいた胸骨圧迫講習会。予習を課し、事前テストを行って来てもらった上で講習会を受講する。最初に目標(出口)を提示した上で、全員に人形で体験してもらい練習を重ねた後、事後テストを行う。
f. IDのポイント	資料を利用して、IDの定義と、ID視点の関係図から研修を企画する順序を説明。
g. 事後テストとアンケート	ID学習会の内容についての事後テストとアンケート
h. まとめ	総括と学習者へ今後の予定と展望を伝える。

4. 結果

アンケートの設問と回答の平均値を表2にまとめる。

表2 アンケート項目とその結果 (10点満点)

項目	平均(sd)
Q1 今日の学習会の内容はとてもためになった	8.8(1.3)
Q2 IDについて理解できた	8.1(1.4)
Q3 IDに沿った研修の基本的流れが理解できた	7.8(1.5)
Q4 今日から職場の研修に活用しようと思う	8.6(1.2)
Q5 学習会の時間はちょうど良い長さだった	9.1(1.1)
Q6 学習会の資料はちょうど良い量だった	9.1(1.2)
Q7 学習会の内容はとても楽しかった	9.1(1.2)
Q8 内容はやりがいがありそうだった	8.5(1.8)
Q9 内容はやればできそうだった	7.1(1.9)
Q10 学習会に参加してよかったと思った	9.2(1.4)

アンケートは、全体の平均が8.5で満足度8割以上の高い評価を得られた。また事後テストは、次の2項目につき到達度を確認した。(1)インストラクショナルデザイン(ID)について説明せよ。(2)IDに沿った研修の基本的な流れを説明せよ。(1)については、全員がIDの定義を説明でき、(2)については、10名中6名がIDの5つの視点を

説明することができた。

5. 考察

初めて行ったID学習会であったが、アンケートでは高評価を得た。また自由記述においても、10名中7名から「今までの研修がなぜ頭に入っていなかったかが分かりました」「このような研修に参加して、学習の進め方が分かりました」「今までの研修を今後どうしたらよいか分かり、今までよりももっとスタッフに理解してもらえるような研修を開けるような気がします」などの好意的な回答が寄せられた。

また、プロトタイプとしての今回の学習会に対する5つの改善点も得ることが出来た。1)事前/事後テストで資料を見ることが可では、誰でも書ける可能性があるため、テストは資料なしで行う。2)3パターンで示す内容も、初めて学ぶ研修時の心理状況を考慮し、学習者が知らない内容へ変更する。3)3パターンの変化も、IDに沿った研修の効果がより分かるよう、パターン3は1・2と別の内容とする。4)目標を、学習者の決意を確認する必要性から、「パターン2と3の違いを言える」「パターン3をやるための必要条件を言える」と変更する。5)アンケートを、学習者の決意を確認するために、「効果的なのは1,2,3のどれか」「今後研修はどのパターンで行うか」などに変更する。

6. おわりに

本発表では、ID学習会で心肺蘇生講習の三変化を体験した結果、アンケートで高評価を得られ、また改善への示唆も得られたことを述べた。短時間であっても、研修にIDを取り入れた変化を身をもって体験することは意義があると考えられた。今後は、得られた改善点を修正し、ID初心者にとって更に理解しやすく効果の高い講習会を開発する予定である。

参考文献

(1) 鈴木克明:“インストラクショナルデザインの基礎とは何か:科学的な教え方へのお誘い”, 消防研修(特集:教育・研修技法)第84号, pp.52-68(2008)